

平成28年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業
(特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究)」報告書

団体名	筑波大学
研究開始年度	平成28年度

I 概要

1 指定校の一覧

設置者	学校種	障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
国立	特別支援学校	肢体不自由	つくばだいがくふぞくきりが おかどくべつしえんがっこう 筑波大学附属桐が丘特別支援学校

2 研究テーマ

学習に遅れがある肢体不自由児に対する各教科の指導内容の精選・重点化，指導の工夫に関する研究

3 研究の概要

学習に遅れのある肢体不自由児を指導する際に，指導目標・指導内容をどのように精選・重点化すれば効果的な指導が可能になるのかを探る研究に取り組んだ。研究対象は下学年や下学部の教科等の目標・内容を含み編成する教育課程に在籍する肢体不自由児及び自立活動を主として編成する教育課程に在籍する肢体不自由児である。

実践研究を通じて以下の点を検証し，効果的な指導内容及び指導方法について検証・提示した。

【下学年や下学部の教科等の目標・内容を含み編成する教育課程における研究】

<国語科，算数・数学科，社会科，理科>

- ① 指導目標・指導内容の精選・重点化を図るために平成27年度までに教科毎に作成した指導内容系統図等を用いて，教科の系統に沿った指導がなされるための指導の在り方を検証した。
- ② 各教科において示している「育てたい力」の伸長の評価の在り方について検証した。

<外国語科（英語）>

- ① 対象生徒が外国語科の学習において見せるつまづきや優位点を整理し，その背景・要因を探った。
- ② ①を踏まえて対象生徒に外国語科において育てたい力を整理した。

<体育・保健体育科>

- ① 対象生徒が体育の学習において見せる難しさを踏まえ，障害特性に沿った指導上の手だてを整理した。
- ② 障害特性を踏まえ，どのような運動を取り扱うか及び12年間で体育・保健体育科において育てたい力を整理した。

【自立活動を主として編成する教育課程における研究】

- ・発達が0歳から3歳程度の重度・重複障害を有する児童生徒の指導において，国語及び算数につながる力を伸ばす指導を行うために，指導内容を系統的に示した指導内容表及び対象児童生徒の実態を把握するためのチェックリストを作成し，系統に沿った指導がなされるための指導の在り方を検証した。

4 研究の成果

下学年や下学部の教科等の目標・内容を含み編成する教育課程における研究においては、研究初年度であった外国語科（英語）及び体育・保健体育科において、それぞれの教科における児童生徒の学習のつまずきの状況が明確化された。また、各教科における「育てたい力」が整理された。それにより、研究2年次に取り組む指導目標・指導内容の精選・重点化を図るために必要となる考え方の構築及びツールの検討に向けた基礎研究を進めることができた。

継続研究であった国語科，算数・数学科，社会科，理科においては，小学部・中学部・高等部のいずれの段階の指導においても，平成27年度までの成果物であるツールを各指導者が共通に活用することで，教科の系統に沿い，一貫した指導を展開することが可能であることが検証できた。また，各教科において提示された「育てたい力」については，個々の児童生徒において，かつ，教科としてより明確化が図られ，どの教科でも特に「思考する力」の育成を大切にしたいことが明示できた。

自立活動を主として編成する教育課程における研究においては，重度・重複障害のある肢体不自由児への指導において，国語及び算数の力につながる系統を示した指導内容表・チェックリストを活用することで指導目標・指導内容を適切に導き出すこと，及び根拠を明確にした指導を展開する手続きを構築できた。それにより，生活を豊かにする力を育てるためには，国語や算数につながる力を育てるという視点を持って指導することの有用性が示唆された。

5 課題と今後の方策

下学年や下学部の教科等の目標・内容を含み編成する教育課程における研究においては，研究初年度であった外国語科（英語）及び体育・保健体育科において，指導目標・指導内容の精選・重点化を図る際に実際に活用できる基軸を作成することが課題である。

継続研究であった国語科，算数・数学科，社会科，理科においては，成果物の指導内容系統図等を児童生徒の実態把握等で用いる際，指導者によって児童生徒の評価が異なることに対する対応について課題が見出された。これに対する打開策を検討する必要がある。また，特に育てたい力として見出された「思考する力」については，教科横断的な指導の取組及び評価の在り方の検討が必要である。

自立活動を主として編成する教育課程における研究においては，指導内容表及びチェックリストを多くの児童生徒への指導において活用することはできなかった。今後は，考え方及び作成した指導内容表等を活用した複数の指導実践を通して，作成物を改良していく必要がある。

本研究は当校のみの取組である。研究の一般化を図るために，今後は他の肢体不自由校においても同様の成果を得ることができるかについて，連携校を設定して検証する必要がある。特に下学年や下学部の教科等の目標・内容を含み編成する教育課程における取組については，肢体不自由以外の要因から学習に遅れを呈する児童生徒においても，本研究の考え方及び成果物を活用して指導目標・指導内容を精選・重点化し，適切に対象児童生徒の力を伸ばすことができる指導の在り方を探る必要がある。そのため，通常校からも協力を得て研究を進めていくことが求められる。